

緩和ケア

自分らしく
過ごすために。



緩和ケア
を
味方につけよう

緩和ケアは、がんと闘う患者さまを支え、
自分らしく生きるお手伝いをするケアです。

からだところ、置かれた状況や人間関係。
さまざまなところに現れた「つらさ」を我慢する必要はありません。
がんによるあらゆる「つらさ」を、緩和ケアで和らげます。

治療を続けたい
自分の家で過ごしたい
好きなことをしたい
懐かしい人に会いたい
思い出の場所へ行きたい

きっと、さまざまな希望を胸にしまっておられることでしょう。

患者さまの思いを大切に、
こころに寄り添ってサポートしてまいります。

桜十字の緩和ケアチーム

スタッフで一丸となって、患者さまとご家族が自分らしく過ごせるようお手伝いをいたします。

緩和ケア認定医 吉本 美和

日本緩和医療学会認定医
 日本抗加齢医学会専門医
 鳥取大学医学部附属病院
 日本医科大学千葉北総病院
 永生会 みなみ野病院
 日本緩和医療学会
 日本老年医学会
 日本抗加齢医学会
 日本美容皮膚学会



「緩和ケア」を行うのは医師だけではなく、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリを行うセラピスト、介護士、ケアマネジャーの他、病院と自宅をつなぐ地域連携のプロがチームとなって生活をサポートします。「一人暮らしだし、自宅に帰るのは無理だろう」、「家に戻って、何かあったら不安だし」どんな悩みでも結構です。がんと診断された方であれば、病気の状態、入院の有無にかかわらず、どなたでも相談してください。「どんな風に生きていきたいか」の実現を、皆で考え・サポートしていきます。



さまざまな職種から構成された緩和ケアチームが、患者さまとご家族の皆さまをサポートします。

PEACE PROJECT による緩和ケア研修会を修了しています。

PEACE PROJECT による緩和ケア研修会は、緩和ケアに携わる全ての医師が緩和ケアに関する基本的な知識・技術・態度を身につけることを目的とした研修会で、二日間にわたる講義が行われます。より良いコミュニケーション、より良いケアを提供するため、当院の緩和ケア病棟の看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがこの研修会を修了しています。



痛みや症状のコントロール

患者さまが痛みや苦しみなどの「つらさ」を感じずに生活できるようにするために利用していただくのが緩和ケアです。緩和ケアでコントロールできるのは、痛みや吐き気、倦怠感、むくみ、息苦しさなど、さまざまな症状であり、それぞれの症状に合った対処法があります。患者さまが感じていることやお困りのこと、どのようなこともお伝えください。

痛みや症状に迅速に対処するため、厚い看護配置（7:1看護）を取っています。

お薬の効果を確認しながら、患者さまの状況に合わせた細やかな処方を行います。

リラクゼーション効果のあるアロママッサージを取り入れています。

予測できる（理由のはっきりしている／周期的な）痛みや症状にはあらかじめ対処します。

緩和ケア担当医が、24時間オンコールで対応します。

日常生活のケア

痛みや症状を和らげたり予防したりしながら「つらさ」を軽減し、日常生活を送りやすくするケアを行います。患者さまに合わせて、医師が細やかにコントロールを行いますので、入院生活や外泊・外出先でも、安心してお過ごしいただけます。少しでも「つらさ」を感じたら、遠慮なくスタッフにご相談ください。



お口のケア

当院には歯科もあり、外来や訪問診療を行なっています。お口の中を快適に保って、好きなもの、心地よいものを召し上がっていただけるようお手伝いをいたします。

リハビリ

希望されるすべての方にリハビリを実施しています。病気の進行度に関係なく、個々に合ったリハビリをお受けいただけます。リハビリの目的は、患者さまに快適で豊かに過ごしていただくこと。身体を動かす、筋肉を動かす、血流を促進するなど、薬によらないアプローチで患者さまの身体にはたらきかけます。



緩和ケアの個別リハ（一例）

- ・身体にかかる負担を軽くする
- ・病気の進行によって起こる合併症や後遺症を予防する
- ・筋力低下の予防
- ・能力維持・回復
- ・マッサージ

緩和ケア外来

ご自宅で療養しながら、外来に通院して緩和ケアを受けることができます。痛み・症状の出方や程度・頻度、お困りのこと、こころの問題など、細かくお話を重ねながら、患者さまをサポートいたします。また、自宅での療養に困難を感じた時は、患者さまの状況をよく把握した医師を主治医として入院することもできるので安心です。



緩和ケア外来実施日

金曜日(午後):吉本

※入院等のご相談をお受けする「緩和ケア相談外来」も実施しています(要予約)。

※「緩和ケア相談外来」の実施日は平日午後です。

お問合せ TEL 096-378-1120(地域連携室直通)

社会的なケア

生活や仕事、家族のことなど、気になることが出てきたら、どのようなこともお気軽にご相談ください。医療費や傷病手当等の経済的なことや、訪問診療や訪問看護・訪問介護のご利用について、また社会福祉制度のご利用等についてなど、さまざまな観点から、療養生活における不安や疑問を解消するお手伝いをいたします。



外出・外泊

ご希望を伺い、良いタイミングで実現できるよう主治医と相談しながらサポートいたします。患者さまのお体の状態を見極め、ご自宅や外出先で起こりうる症状の変化を予測した対策を整えて、患者さま・ご家族とも安心して外出や外泊の時間をお過ごしいただけるよう対応いたします。



家族のケア

ご家族にとっても、大切な家族が病気を患っているのはつらいことであり、ご家族もまた患者さまのご病気と向き合っています。緩和ケアでは、ご家族のこころもケアします。気になること、不安なこと、疑問に思っていることなど何でもご相談ください。しっかりとお話を伺い、サポートさせていただきます。

レスパイト入院について

ご自宅で療養生活を送られているとき、患者さまとご家族が一旦離れて気分転換することがお互いプラスになる場合があります。こういった短期間の入院を「レスパイト入院」といいます。患者さまの状況を伺い、当方からレスパイト入院をおすすめすこともあります。無理をされず、早めにご相談ください。

こころのケア

こころの「つらさ」が体調や睡眠に与える影響も大きく、こころをやすらかに保つことは、緩和ケアにおいて重要なことのひとつです。「つらさ」を口に出して話すことで、心の中が整理されて落ち着くこともあれば、お薬による治療が効果的であることもあります。緩和ケアチームの精神科医がサポートいたします。



思いを叶えるケア

患者さまの思い、ご家族の思いを叶えられるよう、その方に合った精一杯のサポートをいたします。

「また歌いたい」

ゴスペルを習っていた患者さま。「また歌いたい」との言葉を聞き、イベントルームでミニコンサートを開催しました。歌は患者さまと二人のゴスペル仲間。お客さんはご家族やご友人。患者さまも心から楽しまれ、温かなコンサートになりました。

「父に花嫁姿を見せたい」

患者さまのお嬢さまからご相談があり、病棟での結婚式を、当院スタッフも一緒に企画しました。当日、患者さまは正装で参列。お嬢さまのウエディングドレス姿を心から喜び、祝福していらっしゃいました。



桜十字の環境

イベント

春は野点にお花見、夏はそうめん流しに夏祭り、秋は馬追いに舞妓さん、冬は餅つきにイルミネーション。入院生活の励みにしていただければと、さまざまなイベントを行っています。特に季節を感じていただくイベントを行っており、例えば5月は、端午の節句の菖蒲湯、母の日のカーネーション、八十八夜の新茶など細やかに取り組んでいます。



花いっぱいの環境

敷地内は、一年中花でいっぱい。年間を通してお花を楽しんでいただきたいと、四季折々の花を専門のスタッフが植え替え、手入れをしています。また、緩和ケア病棟では、病室からお庭と同じようにお花を見ていただけるよう、専門スタッフを配置。各室のベランダに季節の花々を寄せ植えし、お部屋から見えるプチ庭園をつくっています。

まってるラウンジ（さくら館1階）

病室という場所を離れてゆっくりと過ごせる時間。気分転換ができる場所。家族とプライベートな時間を過ごせる場所。そんな時間や空間を、患者さまやご家族に過ごしていただければ幸いです。



【ヴォルカフェ】

営業時間 10:00～18:00 土・日・祝 店休



シェアルーム

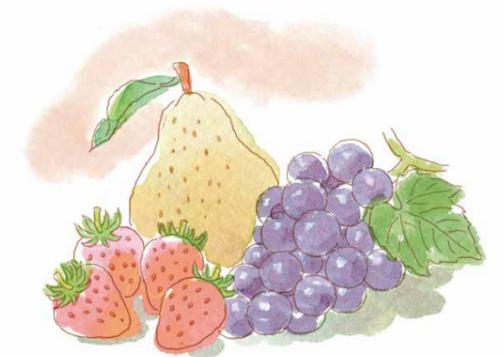
家族の集まるリビングのようなお部屋です。誕生日のお祝いやクリスマスパーティーなど、プライベートな時間をお過ごしください。

予約制

予約方法 ヴォルカフェスタッフにお申し付けください。

売店

さくら館1階に売店がございます。食品や日用品、雑誌などお買い求めいただけます。



緩和ケアを活用する。

緩和ケアを活用できるさまざまなケースをご紹介します。

Case1 一時療養の場として、緩和ケア病棟を利用。

痛みはないが倦怠感があり、日常生活に支障はないが食欲がない。そんな姿にご家族も不安を感じていらっしゃいました。「食べられるようになり、元気を取り戻す」ことを目標に、一時的に入院されました。

食べることができるようになれば、「元気」はついてきます。まずは「食べられるようになる」ことに焦点を合わせて栄養士とともにプランを練りました。患者さまの嗜好を伺い、病状に合わせて食べやすいものを提案しながら、少しずつ「食べたい」の気持ちを取り戻していただきました。食べることができれば、行動する意欲が湧いてきます。当院で行われているイベントにお連れして楽しまれたり、病院でご用意できない焼き肉などを病棟のファミリーキッチンでつくって召し上がった様子にもなりました。「帰って生活できる」という自信を取り戻され、試験外泊を経てご自宅へ戻られました。



ファミリーキッチン

患者さまやご家族が調理し、好きなものをできたてで食べていただけるよう、病棟内に共用の「ファミリーキッチン」を完備しています。



Case2 緩和ケア病棟に入院中。 社会福祉サービスを手配してもらい一時退院へ。

「故郷でお正月を迎えたい」。病状が進んでおり、日常的な痛みのコントロールが必要なため緩和ケア病棟に入院されている患者さま。症状は重く、呼吸苦もありましたが、患者さまのたっのご希望でした。訪問看護や訪問介護等のバックアップを万全にしたうえで一時退院し、念願であった故郷でのお正月を迎えられました。

患者さまの故郷は、当院から車で2時間の距離。このため、ご自宅付近で対応してもらえる訪問看護・介護を手配し、病院からご自宅までの移動中の急変にも備え万全の体制を取ってお帰りいただきました。退院前にはご家族に病状の変化への対処法などを細かくお伝えし、不安があればすぐに戻ってきていただけるようにいたしました。何事もなく2週間をご自宅で過ごされ、「家で過ごせて嬉しい」と笑顔で戻ってこられました。



社会的サービスを利用する

訪問診療や訪問看護など、この例のように社会的なサービスによって患者さまのご希望をサポートできる場合があります。ご本人やご家族だけでは難しいかもしれない、と思われる場合も、一度病棟スタッフやソーシャルワーカーにご相談ください。「桜十字の在宅サービス」もご利用いただけます。



Case3

他の病気の治療をメインに入院、
症状が強いつきは緩和ケア病棟の病室へ移る。

認知症の症状のため自宅で暮らすことに困難があり、がんによる症状よりも、認知症の症状をご家族が気にされていた患者さま。療養病棟に入院し療養しながら、痛みや症状が強いつきは緩和ケア病棟に移り、疼痛コントロールを中心としたケアを受けられました。

このケースでは、緩和ケア病棟の担当医が患者さまの主治医となり、療養病棟で入院治療していただきました。桜十字病院には、多様な診療科目と病棟があり、さまざまな状態の患者さまをお引き受けしています。他のご病気で違う病棟に入院されていても、必要な時に緩和ケア病棟に移ることができます。また、**緩和ケアチームが全病棟をバックアップ**いたします。



緩和ケア病棟以外の全ての病棟のがん患者の皆さまも、緩和ケアサポートチームがバックアップ。

当院には、医師、看護師、薬剤師、リハビリ、ソーシャルワーカー等他職種で構成された緩和ケアサポートチームがあります。緩和ケア病棟以外に入院されている方の中にも、緩和ケアを必要とする患者さまはいらっしゃいます。そういった患者さまを対象に緩和ケアサポートチームが回診を行い、抱えている苦痛や問題に対し、専門的な立場からサポートします。



Case4

自宅療養しながら、緩和ケア外来に通院。

自宅で療養しながら、緩和ケア外来を利用。緩和ケア病棟は、万が一のときのバックベッドとなるお守りの存在にさせていただいています。

緩和ケア外来に通院していただきながら、ご自宅での生活を送ることができます。**万が一入院が必要な場合**は、普段外来で患者さまの状況を把握している医師が継続して患者さまを診てまいります。



緩和ケア外来

自宅療養を行いながら、緩和ケアを利用することができます。当冊子の6ページもご覧ください。

こんな時はご入院を検討してみてください。

- 食事が入らなくなった。
- 長く続く痛みや不快な症状をどうにかしたい。
- 気分的な落ち込みが激しい。
- 不安を抱え込んでいてつらい。
- 日常生活を送るのが困難だ。
- ご家族の不安がかなり強い。



院内ギャラリー



門をくぐると正面に見えるさくら館。花壇には季節の花が植えられ、桜の木がお出迎えます。



入院生活の励みにしていただきたいと、季節ごとのイベントに力を入れています。



病棟のデイルームからは、専門スタッフが手入れする花壇と、見晴らしの良い景色が見えます。



ヴォルカフェ（さくら館1階）

熊本ヴォルターズとコラボしたカフェ。コーヒーや期間限定ドリンク、ジェラートなどが楽しめます。



レタールーム（さくら館1階）

心を落ち着けて過ごすことのできるこの場所には、楽しい筆記具も取り揃えています。



まってるライブラリー（さくら館1階）

明日が楽しみになる本をテーマに選んだ、11のカテゴリ、約300冊の本が並びます。

桜十字病院について

医療費のこと、入院・退院のご相談

地域連携室

TEL.096-378-1120

FAX.096-378-2322

病棟へのご連絡

TEL.096-378-1518

面会時間

緩和ケア病棟では面会時間に制限を設けておりません。

いつでもおいでください。

診療科目

※外来診療科目についてはホームページをご覧ください。 2024年5月1日現在

内科	脳神経外科	小児外科	皮膚科
循環器内科	脳神経内科	外科	精神科
呼吸器内科	リウマチ科	消化器外科	
消化器内科	リハビリテーション科	放射線科	
糖尿病内科	整形外科	麻酔科（蓮尾 友伸・坂本 英世）	
泌尿器科	小児科		

患者さま満足室

患者さま満足室では、患者さまやご家族の皆さまお一人おひとりの声に耳を傾けております。

どのようなこともお気軽に、皆さまのお声をお聞かせください。

フリーダイヤル 0120-300-570

電子メール manzoku@sakurajyuji.jp

※お時間をいただく場合がございます。
お急ぎの方はお電話をご利用ください。

理事長直通便

いただいたお声を直接理事長が拝見いたします。病棟・1Fフロアの各所にポストを設置しておりますので、ご意見・ご感想をお寄せください。

患者さま満足宣言

私は、「桜十字でよかった」という信頼を獲得します。

私は、スタッフで一丸となって、患者さま中心の医療を実現します。

私は、妥協のない清潔さと尊厳が保たれた環境を築きます。

私は、患者さまの言外の希望をも自分のものとして受け止め、解決します。

私は、優れた技術や知識を習得し、医療人として、人として成長します。

私は、笑顔を絶やさず、こころのこもった挨拶を心がけます。

私は、「私がやらねば誰がやる」の精神で何事にも取り組み、進化・改善し続けます。





桜十字病院

〒861-4173

熊本市南区御幸木部1丁目1番1号

TEL 096-378-1120 (連携室直通)

FAX 096-378-2322

URL <https://www.sakurajyuji.or.jp>

